

県教委ドリーム・パス事業

つくば工科高最優秀

高齢者歩行、ロボで支援

金賞は鉾田一高

県内の中高生らが夢の実現や地域課題解決に向けて取り組む県教委の「IBARAKIドリーム・パス事業」のプレゼンテーション大会で、県立つくば工科高(つくば市谷田部)のチームが最優秀の総合グランプリに輝いた。次点となる金賞に選ばれた県立鉾田一高(鉾田市鉾田)のチームとともに9日、水戸市笠原町の県庁を訪れ、大井川和彦知事から賞金目録や記念品の贈呈を受けた。

同事業には県内から190チームの応募があり、書類審査などを通過した16チームが約4カ月間にわたり、大学生や企業のサポートを受けながら研究を実施。1月30日にオンラインで開催されたプレゼンテーション大会で成果を発表した。

総合グランプリを受賞したのは、県立つくば工科高3年の小山雄矢さん(17)、台野智也さん(18)、田中夏稀さん(18)のチーム。高齢者や障害者の安全な歩行をサポートする自動走行ロボットの開発について発表した。

3人は、衛星利用測位シ

ステム(GPS)やセンサーを使って点字ブロック上を移動する試作品を制作。青信号の認識機能を持ち、触れている時だけ走行するタッチセンサーも搭載し、課題解決への具体的な提案と実践が高評価を得た。

金賞の県立鉾田一高1年、飯岡裕介さん(16)、糸数新夏さん(16)、菅谷昂士郎さん(16)、宮嶋晴さん(16)のチームは、空き家問題に焦点を当てた。

4人とも競技かるた部に所属していることから、地域の空き家を借りて「かるた道場」を運営。住民向けセミナーを開き、世代間交流や競技者の育成を目指す



など、地域課題解決につながる提案が評価された。つくば工科高には賞金50万円、鉾田一高に30万円が

り組む動きが出ている。地域活性化につなげたい」と抱負を語った。

(野村雄太)

「IBARAKIドリーム・パスアワード」贈呈式で賞金の目録と記念品を受け取った県立つくば工科高(左側)と県立鉾田一高の生徒たち。水戸市笠原町の県庁

贈られた。小山さんは「ロボットエンジニアになるという目標に近づけた」と手応えを語り、飯岡さんは「茶道部でも空き家事業に取り組みたい」と抱負を語った。